

## インド金融政策（2019年6月）

RBI（インド準備銀行）は3会合連続で政策金利を引き下げ

2019年6月7日

### RBIは追加利下げを示唆

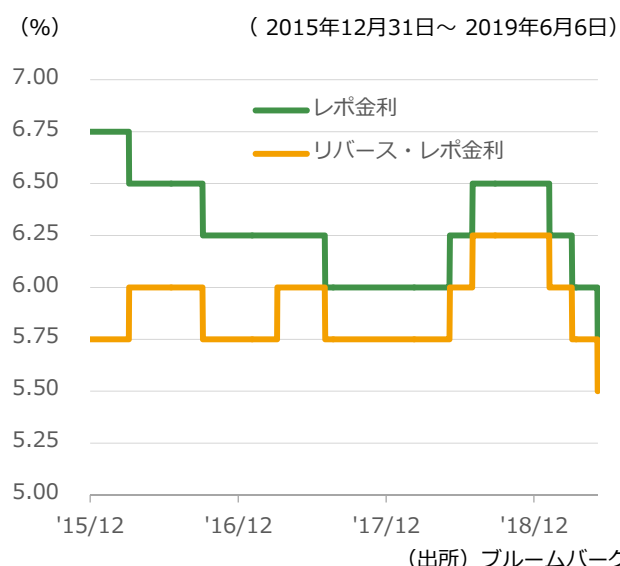
2019年6月6日（現地）に開催された金融政策委員会において、RBI（インド準備銀行）は政策金利であるレポ金利を0.25%ポイント引き下げ、5.75%にすることを決定しました。また、リバース・レポ金利も0.25%ポイント引き下げ、5.50%にしました。利下げは市場でおおむね予想されていましたが、RBIが金融政策スタンスを中立から緩和へ転換し、さらなる利下げを示唆したことはサプライズとなりました。

RBIが金融緩和姿勢へ転換した背景としては、2018年後半以降、インドのインフレ率がRBIのインフレ目標の中心値である+4%を継続的に下回っていることや、経済の減速懸念が高まっていることが挙げられます。また、米国の金融引き締め姿勢の後退により、新興国からの資金流出懸念を背景とした通貨安懸念も後退し、RBIによる政策金利の引き下げ余地が生まれたことも理由の一つと考えられます。

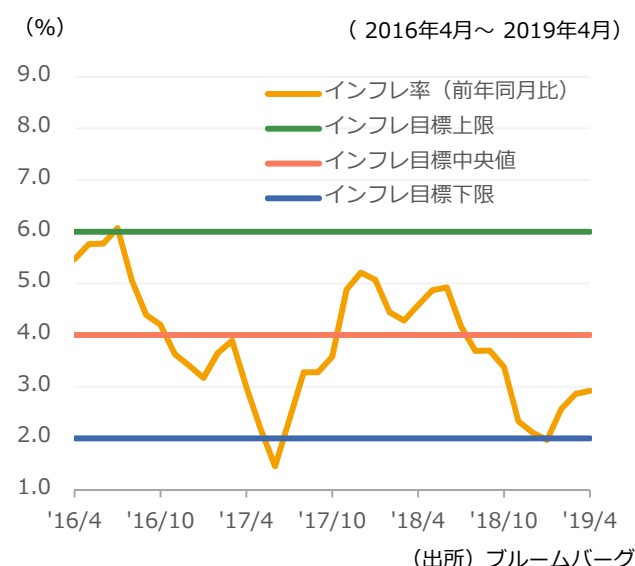
5月に開票された下院総選挙では、モディ首相率いる与党BJP（インド人民党）が大勝し、経済・構造改革路線が継続する見通しとなりました。市場の注目は今後徐々にインドのファンダメンタルズや構造改革の進捗に移るとみていますが、金融緩和姿勢への転換は金融面からインド経済を支援するものと言えます。

インド・ルピーに関しては、経済成長期待や海外資金の流入期待がインド・ルピー高要因になる一方で、利下げや財政赤字の拡大などがインド・ルピー安要因になるとみられ、当面は横ばい圏での安定した推移を見込んでいます。中長期では、モディ首相が「Make in India」構想で海外直接投資を増加させた実績に注目しており、政策支援によりインド・ルピー高が進みやすくなると考えています。株式、債券市場については、海外資金の流入期待と追加利下げ観測が資産価格の上昇を後押しすると期待されます。

#### 政策金利の推移



#### インフレ率の推移



#### 当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。